

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第42回 ウガンダのマスコミ事情（その2） テレビ・ラジオ編

私がウガンダに帰任できずにいた過去2回にわたり、当地在住のムカサ衛さんに新型コロナ禍中のウガンダの状況を紹介していただきました。ところで皆さん、私がウガンダを現地ではなく当地と表現していることをお気づきでしょうか。私、国際商業便が運航していない状況下、大使という役目柄何とか可能な手段を探ってウガンダへの帰任を日々模索しておりました。そして、ウガンダ政府アレンジのカタールはドーハ発の臨時便で7月18日にウガンダ入りを果たすことができ当カンパラ通信を正にカンパラにて執筆致しました。この臨時便は海外在住で帰国を希望するウガンダ人のためにウガンダ政府がカタール航空と交渉して用意したものです。到着後2週間の隔離期間を経て8月4日より館務に復帰しました。

さて今回は、ウガンダのマスコミ事情の後半をお送りします。「その1 日刊紙編」があつてしばらく「その2」がないことに違和感が募りその2としてテレビ・ラジオ編を書き上げた次第です。そうは言いつつもマスコミにコロナ感染症対策が絡む場面もありますので、コロナ禍に関係するところにも触れながらテレビ・ラジオ事情をご紹介します。カンパラ通信第37回でテレビ局が全国に33局があり、そのうち5局くらいがカンパラを本拠地として全国向け放送をしていること、ラジオ局は全国で300近い数字にのぼると紹介しました（先日ラジオ放送局連盟の事務局長に聞きましたところ、現在ラジオ局は全国に309局あるとのことでした。）。前置きはそれくらいにして早速ウガンダのテレビ事情とラジオ事情を見ていきましょう。

私はウガンダのテレビ放送ではUTB（国営）、NBS、NTVの3局をDSTVという南アフリカの有料衛星放送を通じて視聴しております。カンパラには地元の言葉で放送しているテレビ局はBukedde 他がありますが、言葉を理解できず視聴しておりません。首都圏のいずれのテレビ局も番組はほぼ1日中放送しています。といっても深夜は（当地や世界の）ミュージック・ビデオや外国のニュース放送を流しているだけです。放送している番組は、ニュース、音楽、バラエティショー、スポーツ、ドラマといったところです。来年初めに総選挙が実施される関係もあり最近の番組では特に政治的トークショーが目立っています。ウガンダでは自前のドラマ製作がないながらも吹き替えで放送されるメキシコ製やインド製のソープオペラに人気があるようです。主要なテレビ局では基本的に夜9時からメインのニュース番組が組まれています。また、朝には日本で言うワイドショー的な番組があり、この番組に私も大使館と日本人会有志による組織委員会共催の文化行事「日本祭」の宣伝のため着慣れないながらも浴衣姿で出演したことがあります。

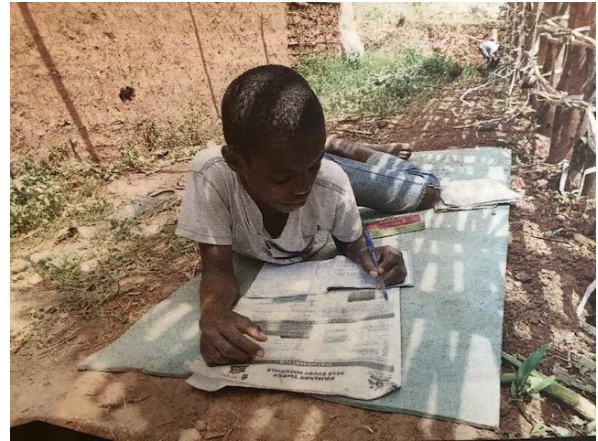


(KFMの放送スタジオに座る筆者)



(TVのモーニングショーに出演した筆者)

次はラジオについて紹介しましょう。ラジオはウガンダでは最も影響力のあるメディアだと言われています。特に農村部ですと新聞をとっている人はあまりなく、テレビも購入するには高価で手が届きません。そもそも農村部をはじめとし電化が普及していないこともあってテレビを見ることができる家は限られてしまい、ラジオが頼りになる情報源となるのです。因みに2014年の国勢調査によれば、当時のウガンダの世帯数が730万で、テレビの保有台数が52万5千台で全世帯数比7.2%に満たないのに対して、ラジオ保有台数は403万台と世帯数比で55.2%となっていました。また、報道によりますと自らは持っていないが友人や近隣の人のラジオが聞けるという世帯まで含めるとラジオに対するアクセス率は95%に達するという事です。ラジオの日々のプログラムはニュースと地元の情報を流しながら後は延々と音楽を流すという状況です。その音楽も多くは地元のポップソングです。多くのFM放送局がありますが、カンパラ市内のKFMという英語で放送しているラジオ局を訪れ話を聞いたところでは全国的には地元の言語で放送しているところが多いと聞きました。多くの部族で構成されるウガンダならではのことで予想どおりでした。複数の英語放送局があるカンパラは別としても主要都市には1局くらいは英語放送しているところはあるとのことでした。KFMではカンパラに住む25歳から40歳くらいのビジネスを営む層をターゲットにしている、この年代が直面する政治、経済、社会のテーマのトークショーを流して人気を博しているそうです。そういう現代的なテーマには英語の方が表現しやすいというのが英語放送を選んだ理由であると教えてくれました。ラジオ放送を聞いていると、マラリアに気を付けましょうとか COVID-19 に感染しないためにはマスクをしましょう、といった情報もスポット的に流しています。



(教育省から配布された学習教材やラジオ放送を聴きながら学んでいる児童)

この度の COVID-19 感染対策を通じて、改めて農村部ではテレビが普及していないという事実が明らかになりました。ウガンダでは最初の感染対策が本格的に打ち出されたのが3月18日です。その時に翌々日20日からすべての学校が閉鎖され現在も学校の閉鎖はまだ続いています。学校閉鎖期間が長期にわたり続けられることが明らかになった6月にはウガンダ政府は休校措置が続く間児童・生徒が勉学を続けられるようにと言う配慮から、各村毎に太陽光発電で観ることのできるテレビ2台の設置と、世帯毎にラジオを1台供与することを約束しました。子ども達が少しでも勉学を続けられるようにするとのムセベニ大統領の気遣いの賜物です。また大統領は、教材も各家庭に無料で配布するよう教育省に指示を出しました。しかし、この約束を実現するためにはウガンダ政府は13.7万台のテレビと1千万台のラジオを購入しなければならない計算になるそうです。実際のところこの約束は果たされていませんが、国営のテレビ及びラジオ放送では通信教育の時間が設けられ午前中に放送しています。日刊紙にも試験準備のための模擬試験問題を掲載したページがあります。

最後にウガンダのSNSの状況にも触れなければ片手落ちとなるでしょう。というのは、ウガンダでも都市部を中心にスマホが普及しており、Facebook や Twitter、それに WhatsApp が非常に人気で、いろいろな情報もまずそういったソーシャルメディアで流れて政府もそれに対応しなければならなくなるケースがだんだん多く見られるようになってきているからです。特に WhatsApp の人気が高く私にも情報をシェアする目的で WhatsApp を持っているか?と、人から尋ねられます。日本で言えば総務省の通信部門の任務を担う部署にあたるウガンダ通信委員会の発表によると、ネットワークに登録されているスマートフォンの台数は2019年現在555万台にもなりません。ウガンダの世帯数が前出の730万と考えますと全世帯数比は75%となります。やはり、テレビよりも安価で購入できる文明の力に多くの人に関心を持っているのですね。いわゆるガラケーの方は1,600万台で、それを含めると驚くべき普及率と思います。そしてインターネットユーザーは人口約4,500万人中2,300万人と見積もられています。そのため、テレビやラジオもオンライン配信で観ること、聞くことができ、ネット上のみでニュースの提供サービスを行う会社もあります。といってもこれらのサービスの受益者はパソコンやスマートフォン

を持っている都市部の市民に限られるでしょう。そういえば、PPAPで有名になったピコ太郎さんが2017年10月にウガンダを訪れ、ウガンダ政府から1年間のウガンダ観光大使を委嘱されました。何故このようになったかという、このPPAPがある時期ウガンダのインターネット上で短期間のうちに大ブレイクし、それを知った日本在住のウガンダ人が在日ウガンダ大使館に掛け合いその力も借りつつピコ太郎さんが所属するプロダクションに話を持ちかけて実現したと聞いております。因みにこのピコ太郎さんには大使公邸にも来ていただき同行した日本からのプレス取材も受け、私も日本のニュースに登場したということがありました。



(ムセベニ大統領と握手するピコ太郎さん)

今回はウガンダのテレビ・ラジオ事情のご紹介と思っておりましたが、ウガンダが開発途上国であってもテレビの普及に比べインターネット環境はなかなかのものであることを知ることとなったのです。

(了)